


豊能町「日常生活の延長線上にある、通いの場所としての認知症カフェ」	
キーワード	認知症地域支援推進員 地域のつながり ピア 協働 通いの場としての認知症カフェ

○ 自治体情報（令和元年9月30日現在）

人 口	19,630 人	高齢者 人 口	8,723 人 (高齢化率 44.4%)	面 積	34.37 km ²
町の紹介	<p>大阪府北西部に位置して、里山ムード満点の東地区と、ニュータウンの西地区に分かれています。</p> <p>東地区にはキリシタン大名「高山右近」ゆかりの高山地区もあります。</p> <p>また町内には史跡や石造美術も多くあります。</p>				

① 活動の概要

取り組み内容	認知症カフェのスタッフを増やす事でチームオレンジを担う人の輪を広げる
取り組みの実施主体	キャラバン・メイト、認知症サポーター
連携した機関等	社会福祉協議会、社会福祉法人、地域包括支援センター
取り組み期間	令和元年 10 月から

② この活動に取り組んだきっかけと経過

豊能町では、認知症サポーター養成講座を毎年積極的に行ってまいりました。認知症サポーターの数は順調に増加していましたが、その後の具体的な活動にはなかなか繋がらず、認知症サポーターになっても活躍する場所が少ないことが課題でした。

また、町内にどのくらい認知症の方がいるのか、特に、介護保険の利用が無い方の実数把握ができず、認知症になった方と実際に接する機会が少なく、身近な問題として実感できないという意見も多くありました。

今回、大阪府のチームオレンジ等構築モデル事業に参画し、認知症の方やその家族をはじめ、近所の方がかかわれる場所、そして、認知症サポーターやキャラバン・メイトが、身近な地域で具体的に活動ができる拠点作り（チームオレンジ）をすすめていくために、認知症カフェの仕組み作りに取り組んでいくことになりました。

③ 活動内容

【認知症カフェの取り組み】

平成 27 年 9 月より、町内の認知症施策事業の一環として認知症カフェを立ち上げました。認知症カフェの運営は、職能のキャラバン・メイトや地域包括支援センター職員などの専門職が担い、取り組みは徐々に定着していきましたが、開催場所が西地区 1 カ所だけで、通える人や啓発周知も限定的でした。

その後、平成 29 年 5 月に、東地区のキャラバン・メイトより、自身の住む地域で一人暮らしや物忘れで不安を感じている方が安心して過ごせる場所が必要と声が上ががり、同年 5 月より 2 カ所目の認知症カフェが立ち上がりました。

その後も平成 31 年 3 月に、西地区で喫茶を経営しているキャラバン・メイトより、場所の提供があり、3 カ所目の認知症カフェ（現在は休止中）が立ち上がりました。

3 カ所の認知症カフェは、それぞれの個性を生かした居場所となり、参加者の交流、相談支援の場所であるだけでなく、「何か自分たちも手伝いたい」と思う高齢者や地域住民の参加や活動の場となる等、認知症サポーターやキャラバン・メイトの活動の一環として、認知症カフェの運営が広がって来ています。

また、認知症や外出の機会が無い方、地域との関わりの無い方がカフェの参加を通して、ボランティアや介護保険のサービスにも繋がっています。

令和元年度には、認知症対応型デイサービスの職員とキャラバン・メイトが協力して、4 カ所目の認知症カフェが立ち上がる等、今後も増えていく予定です。

【現在運営中の認知症カフェの紹介】

<p>『 カフェ あまなつ 』 開催日時：毎月第4月曜日の午後</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 平成27年9月より運営開始。 • 運営主体が、平成31年より行政（町）からキャラバン・メイトへ移りました。 • 現在の参加者は、総勢20名程度。 • 住民のボランティアの方に演奏に来てもらったり、参加者も豆から挽いてコーヒーを淹れるのを手伝ったり、参加者とスタッフの区別なく、協力し合って楽しく過ごす場所を心掛けています。 • また、専門職も参加しているので、認知症に関する相談を受けたり、関わっている方への紹介も行っています。
	<ul style="list-style-type: none"> • 平成29年5月より運営開始。 • 現在の参加者は5名程度。 • 参加者はほぼ固定されていますが、最初の利用時は初見だった方同士が、友人のような関係になっています。 • 認知症のご本人や家族の方、自宅に一人である事が多い方等、事情は人により異なりますが、自分たちでスタッフと次回にやる事を決めて（ケーキのデコレーションや小物作り等）、皆で楽しい時間を過ごされています。
<p>『 カフェ のせのせ 』 開催日時：毎月第2月曜日の午後</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 平成31年3月より運営開始。 • 認知症対応型デイサービス事業所職員の職能キャラバン・メイト、近隣の住民キャラバン・メイト、並びに、地域包括支援センターと連携して発足。 • 認知症の方やその家族、支援者、地域の方、誰でも気軽に参加して、専門職に相談する事が出来る集いの場を目指しています。 • また、認知症のことを知りたいと思う地域の方との交流の場所になることも目的のひとつです。 • ご本人の受け入れが難しく、サービスに繋がっていなかった独居の認知症高齢者の参加いただくなど、支援のきっかけの場となることも期待しています。
	<p>『 カフェ すみれ 』 開催日時：年4回程度、土曜日の午前中</p>

④ 活動を進めていく上での工夫・配慮

- 各地域（西地区、東地区）の通いの場（地域のサロン等）とも連携しながら、認知症カフェを増やしていきます。
- 既存の認知症カフェも含めて、今後新しく出来る認知症カフェとも連携や情報の共有を図る事で、町全体の活動にしていきます。
- 活動するメンバー（チームオレンジのスタッフ）を増やすために、認知症サポーターステップアップ講座を行っていきます。
- 認知症の方と関わることで、認知症サポーターとして、身近にできる事がある事に気付いてもらいます。
- 広報の仕方を工夫します。（地域や場所によって、口コミやメンバーからの紹介など）
- 出張カフェを行う事で、認知症カフェを行っている事を広く知ってもらいます。

⑤ 活動に取り組んで見えてきた効果・課題

効果

- 認知症カフェが、キャラバン・メイト主体の活動として定着してきています。
- 参加者で次にしたい事などを決めています。
- 認知症の方とその家族が、お互いに休む時間をもてるようになりました。

課題

- 各自の認知症カフェが、独自に活動しており、町内に広く発信ができていません。
- 地区により数に偏りがあります。（西地区に2カ所、東地区に1カ所）、現状はほとんどの方にとって歩いて気軽に通える場所にはありません。
- スタッフの負担もあり月1回程度の開催に留まっています。
- 積極的に活動できるスタッフが限られています。

⑥ 今後の活動展望（期待・予想される結果など）

認知症カフェに参加することを入り口とし、イメージとしては点から線そして面での支援に繋げていきます。その結果として、チームオレンジの構築に繋がっていくと考えています。

令和元年度は、事業所に勤務する方にもキャラバン・メイトになっていただいたり、施設の空きスペースを活用したりする等、認知症カフェの開催場所についても、増やしていくことができると考えています。

また既に、自主的に活動している認知症カフェには、チームオレンジの一員としての意識をもっていただきながら、新たに認知症カフェを増やして、その運営に関わる人を養成することで、拠点をはじめチームオレンジの輪を町全体に広げていきたいと考えています。

この活動を通して見えてきたポイント

- 認知症サポーターやキャラバン・メイトの人数は多いが、その力を活用する場が必要
- 認知症カフェに来ることで、人同士の繋がりが出来て、日常生活での見守り等に広がる
- 認知症カフェを運営するリーダーを把握することで、参加者の把握や状況を確認することが出来る

